



ひまわり通信

2023年3月号

今月 11 日で東日本大震災から 12 年が経ち、ひまわりプロジェクトは福島支援から各地のシンボル事業となり、共生社会の輪が広がっています。全国の皆様の栽培の参考にといい、配信させていただきます。ひまわり通信の初めとして、今回は「土作り」を中心にお届けしたいと思ひます。

<土と肥料>

ひまわりは土質を特に選ばなくても育つ丈夫な花です。養分吸収力が強いため、有機質に富んだ肥沃な土ならばあまり肥料はいりません。水はけが良く、排水性と適度な保水性のある土が適しています。

・平らな畑や水田転換畑の場合、周囲に溝を切り、排水対策を十分に行い、畝立てをするとより良いでしょう。畝幅は 70cm 程度、株間 30~40cm とし、点蒔き(1 点 2~3 粒蒔き、深さ 1~2cm) とします。

・庭や花壇では種蒔き 1~2 週間前に堆肥や肥料等を施し、よく耕しておきます。できれば消石灰を施し、中性の土壤にするのが理想です。

・耕作放棄地の場合は、雑草鋤き込みによる残存窒素も考へて、施肥量を増減して下さい。

肥料は植え付け時に元肥として緩効性の肥料を施します。ひまわりが 10 センチになったら 2 週間に 1 回追肥します。肥料が切れると下葉が黄色く枯れこんでくるので目安にしましょう。逆に与えすぎても虫がつきやすくなったりする場合があります。

プランターの場合は、限られた土で栽培するため、追肥が必要な場合が多いので、花つき、葉の色艶などを見ながら、様子を見て追肥しましょう。

ひまわりは直根 30cm 以上、横根もそれ位になる為、それなりのプランターが必要になります。一般的なプランター(幅 65cm×奥行 25cm×高さ 20cm)で植える場合は、丈が 30~40cm になり、かなり小さくなりますので左右 2 本植えがおすすめです。野菜用の深型プランターであれば、より良いでしょう。

種蒔き時期は、その土地の桜(ソメイヨシノ)が散って 2~3 週間後が良いでしょう。

※種には忌避剤が塗布されていますので、手袋をして種蒔きを行ひましょう。

<世界のひまわり油生産量>

世界でのひまわり油の状況を見たいと思ひます。2019 年、全世界で約 2005 万トン生産され、ウクライナ約 583 万トン、ロシア約 541 万トンで、合わせると世界の 50%以上を生産しています。3 番目がアルゼンチンの約 141 万トンを誇っています。

日本は約 1000 トン~1500 トン程度生産されています。

ウクライナはひまわり油の他に、菜種油などの植物油も多く生産され、ヨーロッパだけではなく、約 50%はアジア地域に輸出されています。

2022 年からウクライナとロシアが戦争を行っており、ヨーロッパや北アフリカでは、ひまわり油を揚げ物や料理油として利用することが多いため、油不足や小麦に関しても食料不足の問題に

より、今後暴動に発展する可能性があります。1日も早い平和を願い、皆さんとひまわりを育てられたらと思っています。

【ひまわりプロジェクト活動紹介】

「ひまわりプロジェクト」を紹介し参加を呼びかける取り組みが広がっています。

「グリーンコープ」と「生活クラブ生協」の活動を紹介します。

1. グリーンコープ発行の「共生の時代」3月号

「グリーンコープは、1995年の阪神・淡路大震災をはじめ、2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震、その後毎年のように発生する災害に対し、被災地の支援に取り組んできました。地域が元気を取り戻すまで、一人ひとりに寄り添いながら息の長い支援活動を行っています。」として、被災地の現在を伝える特集が生まれ、東日本大震災の中で「ひまわりプロジェクト」が大きく紹介されています。2022年11月19日のひまわり感謝祭に参加され、シンポジウムではパネラーも務めていただいた共同体代表理事日高容子さんの感想も掲載されています。「シャロームとグリーンコープは『共生』の思いが通じています。人や地域とのつながりを大切に、これからも支援を継続して、共にひまわりの輪を広げていきます。」と言う心強いメッセージをいただいています。

2. 生活クラブ「サステイナブル フェス! 2023」

生活クラブ復興支援ニュースにおいて、「今年も『ひまわりプロジェクト』に取り組めます。」として特集を組んでいただきました。「サステイナブル フェス!」として組合員に広く「ひまわりプロジェクト」への参加者を募り、1口6粒入りの種を6000セット配布されています。申し込みから種の収穫までの流れも丁寧に紹介され、夏のひまわりが楽しみです。シャロームの代表も原稿を寄せており、シンポジウムの共同メッセージとして確認された以下の2点を紹介し、福島教訓が生かされ「ひまわりプロジェクト」が共生社会を目指す仲間のネットワークとして広がっていくことを願い参加を呼びかけています。

○「ひまわりプロジェクト」を共生社会を目指すシンボル事業と位置づける。

○共生原理を理念とする社会・経済活動において、相互に連携協力を推進する。

—連絡先—

NPO 法人シャローム「ひまわりプロジェクト」実行委員会

〒960-8141 福島県福島市渡利字鳥谷下 67-1

(ベーシック憩内) 担当:野内・宍戸・杉山

TEL:070-5474-4166 FAX:024-529-6902

Mail:info@nposhalom.net

HP:http://www.nposhalom.net/himawariproject/



GOOD
DESIGN
AWARD
2015



編集:NPO 法人シャローム「ひまわりプロジェクト実行委員会」